

月刊 En-ichi 圓一

9
no.256

魂の教育を実践する

インタビュー

「人格教育」による真の教育再生果たせ

中京女子大学名誉教授 加藤十八



日本の家庭を守る教育情報誌

今月の
焦点

日本は米国で失敗した進歩主義教育を導入してしまいました。それに対して、米国では過去日本が成功した伝統的な教育…徳目を決めて、それに基づいた人格形成教育を実践しているのです。

「人格教育」による真の教育再生を果たせ 加藤十八…7

ドイツの憲法に当たる基本法には、家族を手厚く保護する法律が存在する。それこそが、同国の児童手当や家族優遇税制…などの制度の根拠となっている。憲法で家族が尊重され、保護されているのだ。

「家族尊重」が国の骨格をなす政策—欧州の家族政策最新事情…11

服務の宣誓をしていながら、その通り実践しなかったとすれば、辞めるべきです。(教師には) それぐらいの覚悟と社会的な評価が必要ではないかと思えます。

学び続け、「奉仕」することが教師の「道」 鈴木重男…14

信州は昔から、薩摩や長州、土佐などとは違って、軍や政治の分野ではなく、文化の分野で日本をリードしてきた伝統があり、それは日本の将来を考える時、まことに時宜に適した良き遺産である。

蘇れ 信州教育 鈴木博雄…19

3 巻頭言

「ジャンケンポン」の素朴な祈り 帝塚山学院大学名誉教授 川上与志夫

4 教育再生への課題と展望

日本に浸透した、なれ合いの「徳治主義」を正す

「人格教育」による真の教育再生を果たせ 中京女子大学名誉教授 加藤十八

10 ワールドアフェアーズ

「家族尊重」が国の骨格をなす政策—欧州の家族政策最新事情

12 情報ファイル

児童虐待相談件数、5万5000件を超える
いじめ7万5000件、高校不登校も増加

14 私の教育実践

学び続け、「奉仕」することが教師の「道」 北海道文教大学准教授 鈴木重男

16 病を克服した偉人たち

トーマス・エジソン 難聴きっかけに世紀の発明

18 昭和は遠くなりけり

蘇れ 信州教育! 筑波大学名誉教授 鈴木博雄

20 子育ては絵本で大丈夫

沖繩の物語「ふなひき太良」 劇団天童 / 天童芸術学校代表 濱島代志子

21 教育情報

なでしこジャパン “もう一つの勝利”

22 Book Review

24 歴史と伝統の探訪

稲むらの火と濱口梧陵 / 和歌山



帝塚山学院大学名誉教授

川上与志夫

巻頭言



「私はカトリック信者ですが、伝統的な『グレート・スピリット』にも祈りを捧げます。矛盾は感じません。グレート・スピリットは中心の大きな輪を作り、すべての神々と同心円を描いています。輪の中ですべての物はきょうだいです。だから私はいつも、人のためだけになく、山や川、森や樹木、動物や小鳥に話しかけています。これが私の祈りです」

アメリカ先住民の族長が、見事な「いがみ合いのない宗教観」を語ってくれました。

すべてを善と悪、白と黒に振り分ける一神教的白黒思想は、独善的かつ排他的になりがちです。

日本人の思考の素晴らしさを単純明快に示しているのが、ジャンケンポンです。ここでは三者が平等に有機的に関係しあっています。これは勝ったり負けたりの世界観です。

この思考によれば、神仏ですら完全無欠の「唯一、全知全能、絶対愛（慈悲）」ではあり得ません。グー・チョキ・パーの一つにすぎないからです。仮に、パーは神仏、グーは人、チョキは悪魔と規定してみましよう。人は善と悪に挟まれています。

パーが極端に強ければ、チョキも紙（神）を破ることができません。愛の理想社会が近づきます。実際にはパーの弱みにチョキが切り込みます。その結果が今回の大災害です。

グーが極端に強ければ、紙を破ってしまいます。この姿は神なき科学至上主義と人間万能主義です。現

「ジャンケンポン」の素朴な祈り

実はグーである人は弱者です。紙に包まれるだけでなく、しばしばチョキにすら崩されてしまいます。これが人間社会にはびこる悪です。

チョキが極端に強ければ、パーは切り裂かれ、グーも粉々にされます。暗黒世界の出現です。しかし、チョキもそれほど強くありません。三者は勝ったり負けたりしている・・・それが現実です。その現実に変化をもたらすのが祈りです。祈りは言動だからです。震災の避難所に、ボランティアが毛布とおにぎりを届けました。ひとりに一枚と一個です。不平や不満が聞こえるなかで、ひとりのおばあさんがおにぎりを押し戴きました。

「こうして座っているだけなのに、毛布に包まれ、おにぎりが頂ける。おかげ様です。ありがとうございます」

祈りの本質は賛美と感謝であり、それは行為となつて表現されます。ボランティアの行為もおばあさんの言動も立派な祈りです。祈りはパーを強め、チョキを弱め、自らのグーを謙虚にします。祈りにおける願望は本来二の次のもので、欲望とは違います。

自然崇拜する日本人やアメリカ先住民は、無意識にジャンケンポンの思考（宗教観・信仰）に生きていると言えるでしょう。人のための無償の行為は、美しい祈りです。この祈りは、既成宗教の枠にとらわれません。西欧人はこの不思議な光景を見て驚くのです。

日本に浸透した、なれ合いの「徳治主義」を正す

「人格教育」による真の教育再生を果たせ

日教組に迎合した 誤った「徳治主義」

うわべだけの、誤った「徳治主義」ではなく、徳目を教える教育を取り入れていくべきだ。

今、日本の教育は学力低下や規範意識の希薄化など多くの課題を抱えています。その大きな要因として私が指摘しているのは歪んだ「徳治主義」です。

学者や文部官僚、校長など多くの人が「日教組が教育を悪くした」と言います。確かにそうです。間違いなくそう思います。ただ、それにもまして私が問題だと考えるのは、日教組に迎合してきた、うわべだけの誤った徳治主義者たちです。

我が国の明治以降の教育は、教育勅語の精神に則って、修身教育、人格教育を行ってきました。その基盤の上に立って、教師も生徒も学力と規律の向上を目指してきました。公平に見て、良い教育だったと言っていると思います。

こうした明治以降の教育の成功は、「徳をもって治める」という、儒教精神に基づく徳治主義の精神性を基盤にして、一方で西欧文化の進取独立、競争主義、能力主義などの力強い行動性を融合させた教育理念にあったと言えます。

ところが、現在の教育界における徳治主義は、「信頼関係で教育は成り立つ」などの情緒的、心情

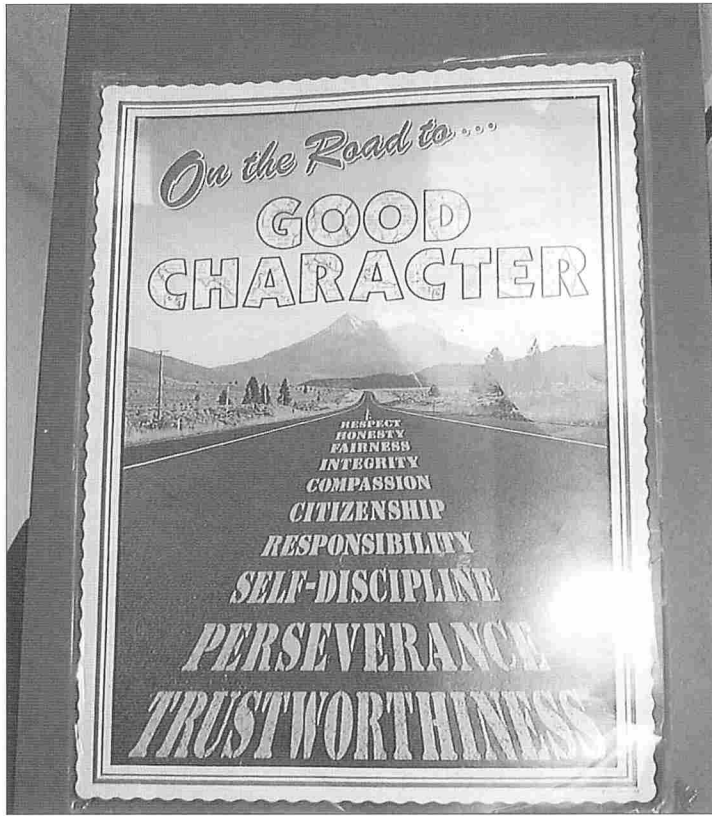
加藤 十八

かとう・じゅうはち

中京女子大学名誉教授

1927年愛知県生まれ。名古屋大学岡崎高等師範学校物理科卒。名古屋大学付属中・高校教諭、同大教育学部講師、県立高校教諭、教頭、校長、中京女子大学教授等を務める。著書に『日本教育の光と影』『アメリカの事例に学ぶ学力低下からの脱却』『ゼロトレランス・規範意識をどう育てるか』『ゼロトレランスからノーイクスキュースへ—アメリカの最新教育事情に学ぶ日本教育再生のカギ』他。





「人格教育」のポスター

米テキサス州、フォートワース教育委員会のポスター。「よい品性への道—信頼、忍耐、自己規律、責任、市民性、思いやり…」このように米国では、各教育委員会及び学校で善き品性を身につけるための徳目を定めて、子どもたちに教えている

的な面だけを主唱し、徳治主義を真に支える礼節や仁、公に尽くすなどの徳性などはないがしろにしています。道を主唱しても、具体的な徳を主張しないのです。また、合理的、競争的、実効的な側面を軽視します。

そのため、伝統を重んじると口では唱えますが、進歩的、民主的と称する日教組などが言う教条主

義と「なれ合って」しまう。そこに「日本教育病」が発生してしまうのです。

ですから、校長が「日教組が悪い」と言いながら、「私は管理的な法はとらない。先生方を信頼する」と称して、職員会議などは日教組任せにして、「問題の起こらない学校経営」を行おうとします。表面的には波風を立てないように気を配るのです。職員会議においては正面の席を占めずに、組合員が議長をやって「国旗国歌反対」を決めてしまうのです。「規則を作らない」「権威をふりかざしてはいけない」「カウンセリングで生徒指導を行う」と言う。生徒指導などは「心のケアを重視する」と言って、誰からも反対されないように気を配るのです。

また多くの徳目の中から日教組に文句を言われない「友愛」とか「信頼」のような言葉だけを取り出して、「立志」「忠節を尽くす」「孝行をする」「公に尽くす」などのわが国の伝統的な徳目は取り上げようとしません。

「教育は「信頼関係」だけで成り立つのか」

戦前の教育には、校長は権威を持ち、威厳がありました。校長が「しっかりと勉強しよう」と言えば、先生や生徒たちは従いました。

そのような伝統的な権威を否定して、今は「教育は信頼関係で成り立つ」と言います。信頼はもちろん大事です。しかし、最初から信頼関係が成り立っているでしょうか。生徒にはそのときは分からなくても、後から「先生は自分のために厳しく鍛えてくれた」と感じて初めて信頼関係が意識されるのです。最初から信頼を得ようと思ってしまうエセ的な姿勢は、それは生徒におもねるようになってしまします。

日教組が管理教育反対を言い、うわべだけの現在の徳治主義者たちも同じように学校の管理体制や規律や規則の価値を低く見ます。「いじめが起る学校は管理や規則ばかりを優先した最低の学校である」

日本の伝統的教育が、今の米国に生きている

といった評価をしてしまう。このような規則の価値を低く見ることが、社会規範の軽視や順法精神の欠如に繋がっているのです。

現場の先生たちは、管理や規則という教育的な重要な手段を取り上げられてしまつて、教師は目線を下げて、受容と共感のもとに心のケアを行えと言われていてるわけです。このような誤つた徳治主義的指導論では、学校規律は乱れ、指導に悩む先生たちを増加させるばかりです。そして教育的士気を下げってしまうのです。校内暴力などが起こっている現場では、このような生徒指導法は通用しないわけです。

米国で失敗した 進歩主義を導入

よく考えてみると具合が悪いことに、日本は米国で失敗した進歩主義教育を導入してしまいました。それに対して、米国では過去日本が成功した伝統的な教育を採り入れているのです。かつて日本は「幼

学綱要」(明治十五年)で「孝行」「忠節」「和順」など二十の徳目を決め、これらの徳目を基本にして「修身教育」を行ってきました。今、米国では徳目を決めて、それに基づいた人格形成教育(キャラクターエデュケーション)を実践しているのです。

逆に、今の日本は「徳目を教えてはいけない」という、過去米国が失敗した「価値の相対性」による道徳教育を推進しているのです。

一九六一年、米国の最高裁は「学校での宗教教育を禁止する」という判決を出しました。このような情況のもとに、リベラルな学者た

「幼学綱要」(明治15年)の20の徳目

孝行、忠節、和順、友愛、
信義、勤學、立志、誠實、
仁慈、礼讓、儉素、忍耐、
貞操、廉潔、敏智、剛勇、
公平、度量、識断、勉職

ちは「価値相対主義」を訴え始めたのです。子どもたちは自ら経験して、自分自身で道徳的価値判断をさせるべきである。宗教や教師などからの絶対的な価値判断を押し付けるのではなく、あくまで個人で判断させるのが良いということです。一九三〇〜四〇年代、デュエイの進歩主義教育によって、子供中心主義が広がったのと同じように、従来からの宗教教育に基づく道徳教育が、価値相対主義になつていきました。

わが国の教育者たちは、この価値の相対性を背景にして、徳目を教えることは戦前の修身教育につながると批判するのです。

規則に従うことの 大切さを経験

現在の米国の学校規律はほぼ完全に正されていて、キャラクターエデュケーションによる人格形成教育に力を入れています。

生徒指導、規律指導についてはゼロトレランス(寛容さなし)方

精神的覚醒を迫られている今こそ、正しい徳目を定め、子どもたちに教えていくべき

式で取り組み、九〇年代に成果をあげました。今の米国の学校の規律は、戦前の日本よりしっかりしていると言えるかもしれません。授業中は静か、私語や立ち歩きや遅刻はなく、教師の指導に素直に従います。それは自由と民主主義の社会を守るために規則に従うということを、学校時代にしっかりと経験させようとするためです。さらにその上に、今はキャラクター・エデュケーションに力を入れているのです。

正しい徳目を定め 教えていくべき

日本でも今、教えるべき徳目を定める必要があると思います。今回の震災で日本人が精神的な覚醒を迫られている今こそ、必要で正しい徳目を定め、子どもたちに教えていくことが重要です。

その第一は、自分自身を自分で律するという自己規律的徳目です。正直、忍耐、責任、勉強、克己、責任などです。自らの行動には自ら

が責任を持つこと（フーイクスキュースII弁解なし）の人格形成です。

第二は、他人や社会と調和していきける社会的規律徳目です。礼儀、信頼、調和、協力、奉仕、公に尽くす、愛国心などです。

教育は「信頼関係」とか「価値の相対性」というだけでは成り立たない。教育は権威を持ってしっかりと教え込まなければなりません。子どもには良いことを早いうちに教えていけば、身に付いていきます。教師はそれだけの権威を持って教えていくべきです。

それができないのは、おかしな子ども中心主義やうわべだけの徳治主義です。それに加えて、米国が失敗した教育の人間化論が、現在の日本の教育界にはびこっています。それは、「管理しなければ、子どもは真の人間性に目覚め、生き生きと学ぶようになる」というのです。このことは、うわべだけの間違った徳治主義と相通じるころがあります。ですから日教組を批判するだけでは問題は解決しないのです。

フィンランドと 英国を視察して

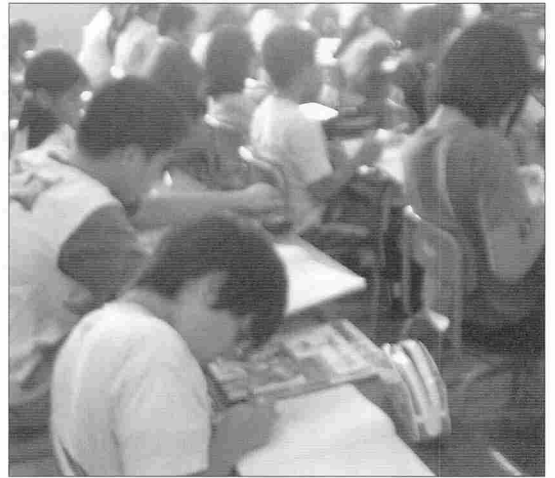
私は講演などの際に、「今の米国の教育は戦前の日本より規律正しい教育を行っている」と言っています。なぜなら、個人の尊厳としての自由と民主主義を尊重しながら、全体の規律もしっかりと正しいからなのです。

しかし、米国の教育が良いという人は残念ながら日本には多くいません。ではどこがいいかというと、フィンランドや英国が良いと言いう人は多いのです。

私たちは昨年、フィンランドと英国を視察したのですが、米国と同じようにフィンランドも英国も、子供中心主義教育などやっていません。伝統的な当たり前の教育を着実にやっているのです。

フィンランドは「競争なしに学力世界一になった」と言う学者もいますが、それは違います。教育方法の基本である競争主義や能力主義を大切にして、真に子どもの

フィンランドや英国は伝統的な教育を行っている



当たり前の教育を受けられるように、教育に自由を取り戻すことだ

パーテストの得点は真の学力ではない、自ら学び、自ら経験し、自ら問題解決する能力が真の学力であり、これが「生きる力」になると言う。こんな観念論はフィンランドや英国では通用しません。

教育学者たちが思考を統制されている。このような疲れ果てた時代遅れの教育論に従って、わが国の教育行政が行われている。観念的な教育論を展開するのです。このことは父母や国民の公立学校不信につながり、私学や塾の隆盛となっているのです。

英国のグラマースクールにおいては、義務教育を終える十六歳以降は、教師から厳しい指導を受けて大学入試科目の勉強に没頭します。これによって真の学力を身につけて、オックスフォードやケンブリッジなどの有名大学に合格できるように努力するのです。このように、パーテストは学力を測る上で重要なのです。

私たちは、わが国の子どもたちが世界の子どもと同じように、当たり前の子どもの教育を受けられるように、教育に自由を取り戻さなければなりません。

教員養成系学部を改組すべき

教育とは文化です。もともと教育学があつて教育が成立したわけではありません。親から子へ、子から孫へ自然発生的に伝えられ、受け継がれてきた文化形態が教育なのです。この伝統的教育の目指すものは、学力と規律の向上であり、このことは古今東西不変です。

一つの大きな問題は、わが国の教育学部制度の問題です。教員養成

ためになる教育が行われ、その結果がPISA（学力テスト）の得点を世界一にしているのです。

また、フィンランドでは、かつての領土がソ連に奪われたことも小学校からしっかり教えており、国家意識の高揚を図っています。

英国ではグラマースクールを見学しました。パーミンガムにあるキングエドワード学校です。私はこの視察のレポートの結論に「日本の教育学には自由がない」と書きました。それは、わが国の教育学者たちが一斉に口を揃えて、ペー

パーテストの得点は真の学力ではない、自ら学び、自ら経験し、自ら問題解決する能力が真の学力であり、これが「生きる力」になると言う。こんな観念論はフィンランドや英国では通用しません。

英国のグラマースクールにおいては、義務教育を終える十六歳以降は、教師から厳しい指導を受けて大学入試科目の勉強に没頭します。これによって真の学力を身につけて、オックスフォードやケンブリッジなどの有名大学に合格できるように努力するのです。このように、パーテストは学力を測る上で重要なのです。

わが国の教育学者の多くが、子ども中心主義のような理念に画一的に統一させられてしまっていて、管理してはいけない、教え込んではいけない、規則でしぼってはいけないと一斉に同じことを主張し、

教育は、親から子へ、子から孫へ受け継がれてきた文化

成系学部を改組すべきだと私は考えています。教員の指導力向上のため、安倍内閣のときに「教員免許更新制」を作りました。しかし、私はこの制度には問題があると考えています。なぜなら現職教員は大学の教育学部で講習を受けます。この講師は教育学部の学者が担当するわけです。そこで教えられているのは、まさに子ども中心主義に基づく教育論なのです。これは大問題であると言えます。

日本における道徳教育ですが、個人の自己規律と社会規律を身につけるための人格教育が重要であると考えます。一つひとつの徳目を

ていねいに教えていくことが必要です。戦前の日本人の人格像は世界から評価されていたのは確かです。日本人は正直で勤勉で礼儀正しいと、評価を受けていました。その根本には幼学綱領で指定された二十の徳目を教えられていたということがあります。今はそれが教育学者たちによって歪められた形で伝えられています。その意味では、教育学が日本をだめにしたと言っても過言ではありません。

ですから、徳目の一部分だけを取り上げるのではなく、もつと総合的に捉えていくべきです。国と

の上で様々な徳目を教えていく必要があるでしょう。

長年、米国の教育を見てきましたが、当たり前の伝統的な教育に回帰して成功しています。英国とフィンランドも、やはり当たり前の教育をやっています。教育は学者が作るわけではありません。親から子へ、子から孫へ自然に伝えられているものなのです。

教育で最も重要なことは、一般市民や父母の教育要求に応えることとです。それは学力と規律の向上を図るための「当たり前」の教育なのです。目

日本人は偉大だ

いちばん心に響く！ 世界に誇る20人の生き方

杉原千畝
望月カズ
新渡戸稲造
西岡京治

朝河貫一
野口英世
鈴木大拙
ラグーザ玉

織田樞次
今西錦司
新島襄
ほか

学校でも
ちやんと
教えて
ほしい！
日本の心



増子岳寿 著 四六判/246頁 1680円

誇りと自信が
湧いてくる！

ご注文は書店へ、お急ぎの方は下記へ

コスモトゥーワン

tel.03-3988-3911 fax.03-3988-7062

http://www.cos21.com

〒171-0021 豊島区西池袋2-39-6-8F

見直し迫られる 社会保障政策

欧州先進国では、家族手当などと呼ばれる子育て支援制度ができて長い年月が経つ。家族手当は、高い出生率で注目されているフランスでは有効な少子化対策と見なされているが、英国やドイツなど他の欧州諸国にも同様な制度は存在する。

家族手当は、福祉大国と言われてきた北欧やドイツ、フランス、英国の社会保障政策の大きな柱となってきた。日本の民主党政権も、その制度を真似て子ども手当を導入したが、日本では家族政策が国家の骨格をなす政策になったことはなかった。

欧州諸国は、二十世紀の二つの大戦で多くの犠牲者を出した。その経験から、人が人間らしく生まれ、人間らしく生き、人間らしく死ぬことを保障する福祉国家建設に戦後はしごきを削ってきた。それは右派・左派に関わらず、伝統

ワールド・アフェアーズ

「家族尊重」が国の骨格をなす政策

—欧州の家族政策最新事情

欧州では「家族政策」が国の骨格をなす政策となってきた。財政問題などから手厚い社会保障を見直す動きもある一方、憲法で家族尊重を謳うなど、家族という単位が国民生活の核をなしているという認識に変わりはない。

在仏ジャーナリスト 辰本雅哉

的弱者救済のキリスト教精神と社会民主主義的思想に支えられながら、その充実を図ってきた。結果として、例えば全ての国民が老後を心配しないで済むデンマークやベルギーモデル、子育てや教

育に手厚いドイツやフランスモデル、さらには英国労働党が戦後掲げた「ゆりかごから墓場まで」の福祉政策が世界にインパクトを与えてきた。

しかし、国民生活を手厚く支援

する社会保障制度は、限りなくその国の経済が成長し続けることが前提だったため、経済が停滞した一九九〇年代に入り、様相は一変した。同時に当初は家族一世帯に對する保障だったのが、家族形態の多様化により、家族から個人の保障に移行し、政府の予算が逼迫するなかで保障の範囲は逆に広がる二重苦に陥った。

さらにはグローバル化が進み、欧州統合を象徴する単一通貨ユーロの信頼性がギリシャの財政危機から揺らぎ、どの国も緊縮財政に向かわざるを得ない状況に見舞われている。そのため、多くの国々が、社会保障政策の大幅な見直しを迫られているのが現状だ。

フランスのサルコジ大統領は、大統領に就任した二〇〇七年、「フランスモデルなどと自慢している場合ではない」と語り、二〇〇九年には家族制度に関する会合で「手厚い育児休暇が国にも企業にも重荷になっており、改定が必要」と述べて、改革に取り組んでいる。

母親が子育てや家事をするとい

う伝統的慣習は、欧州でも多くの若い世代の家庭を中心に変わりつつある。不況で夫が失業し、妻が就労しているために、夫が子育てしている家庭も増えている。英国には主夫の協会もあるほどだ。

憲法で家族を 尊重し、保護

しかし、いずれにしても両親が子育ての義務を負っていることに変わりはなく、子育てを夫に押しつけ、職業上の自己実現だけに専念する女性は欧州では評価されない。あくまで人生の中心は家庭にあり、家庭にこそ幸福の源泉があると考えるのが主流だ。

たとえば、結婚を家庭の始まりと考えるドイツ人と、事実婚が多く、子どもが生まれたら家庭ができたと考えられるフランス人の違いはあるにせよ、人間の営みとして、家庭を持ち、子どもを産み育てることを尊重するという考えに異議を唱える人はいない。

私のフランス人の友人で、子ど



家族連れで賑わうフランス・パリのルクセンブルク公園

ものいない事実婚のブリュノ（五六）は最近、子どもが五人いる会社の同僚の家に招かれて「自分も本当は、あんな幸福な家庭を築けたらと思ったがそうならなかった」と残念そうに言っていた。

英国の家族支援のコンサルタントをしている心理学者のコンラッド氏は「誰もが幸せな家庭生活を夢見ながら、親の離婚等を経験して、結婚生活や子育てに自信が持てないなどの心配から、独り暮らしを続ける人は少なくない」と指摘している。

家の負担も少なくなる。

家族の価値を体現する アラブ・アフリカ移民

一方、欧州はアラブ系や中国系移民の急増で、移民の同化問題を抱えている。ノルウェーで起きた連続テロは、移民増加を容認する現政権への反発から起きたとされるが、その根底には異文化を持つたアラブ系移民などへの蔑視と憎悪がある。

ところがアラブ・アフリカ系移民たちが家族や血族を大切にし、家族崩壊が進む欧州社会に新しいインパクトを与えている現象も見逃せない。彼らは欧州人にならなくても家族の価値を体現している場合もあるからだ。

さらに欧州各国では、家庭は他に代替できない子育てや教育を行う貴重な存在であり、高度な福祉機能を備えた社会の単位と考えられている。無論、国民の多くが健全な家庭生活を実現できれば、国

とかく、高い離婚率や事実婚の多さ、女性や子どもの人権尊重などで語られることの多い欧州だが、社会における家族という単位は、今でも国家の骨格をなす存在として尊重され、国の政策の中心課題として扱われている。■

厚生労働省「児童虐待」

相談件数、5万5千件超える

通報の徹底でさらに増加も

全国の児童相談所が二〇一〇年度中に相談・通報を受けた児童虐待相談件数は、過去最高だった前年度より一万九百四十一件増の五

万五千百五十二件（速報値）と過去最高を更新したことが厚生労働省のまとめで分かった。

児童虐待相談件数は調査開始以

来、増加の一途を辿り、二〇〇四年度に三万件台に達し、二〇〇七年度には四万人を突破した。その後、わずか三年間で約一・三六倍

の急増ぶりだ。

これについて、

同省では「虐待防止への関心が高まり、近隣住民などからの通報件数が増えたことが背景にある」と分析している。

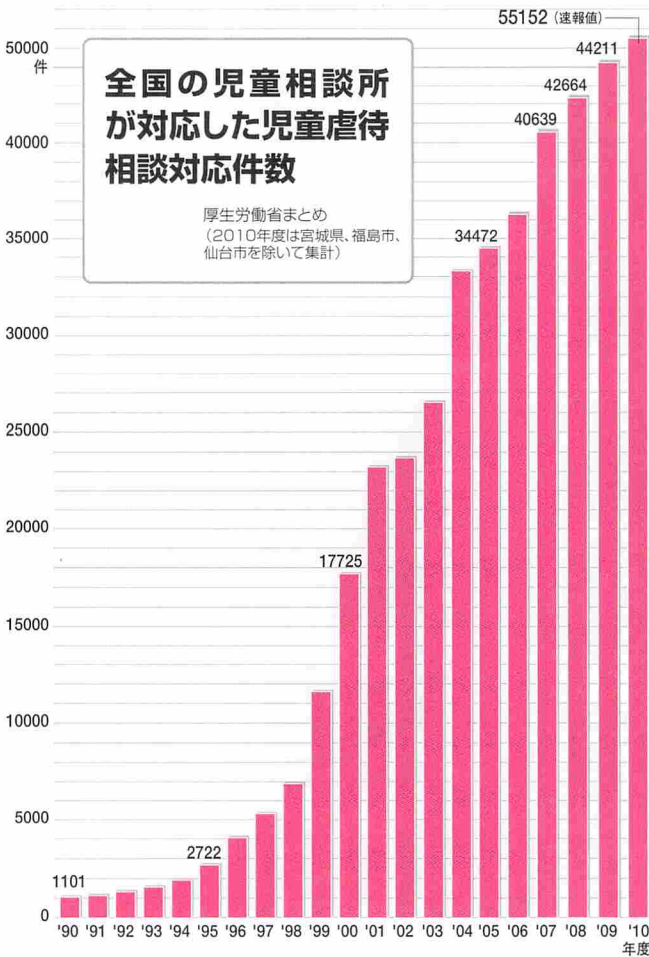
都道府県別で

とくに前年より増加幅が高かったのは、愛知（二・七八倍）、栃木（一・六七倍）、大分（一・六六

倍）となっている。児童虐待による死亡事例検証結果（第七次報告）によると、二〇〇九年度の一年間で七十七事例、八十八人の児童の死亡が確認されている。虐待死が四十九人、未遂を含めた心中が三十九人。虐待死のうち、〇歳児が約四割（二十人）、〇歳〜五歳児が約九割（四十三人）を占めている。

虐待の六割は「身体的虐待」で、三歳未満では食事を与えない、世話をしないなど「ネグレクト」が約半分を占める。また虐待の主たる加害者は、約半数が実母。虐待死の事例では、「望まない妊娠」「妊婦健診未受診」「母子手帳未発行」など、妊娠期・周産期の問題を抱える事例が多い。

虐待死のなかには児童相談所が関わっていないながら、防げなかった事例が増えているという。虐待の急増に対して、児童相談所が対応しきれない状況が見られる。通報義務の徹底で今後さらに増えるの見込まれ、児童相談機関の体制整備は急務だ。



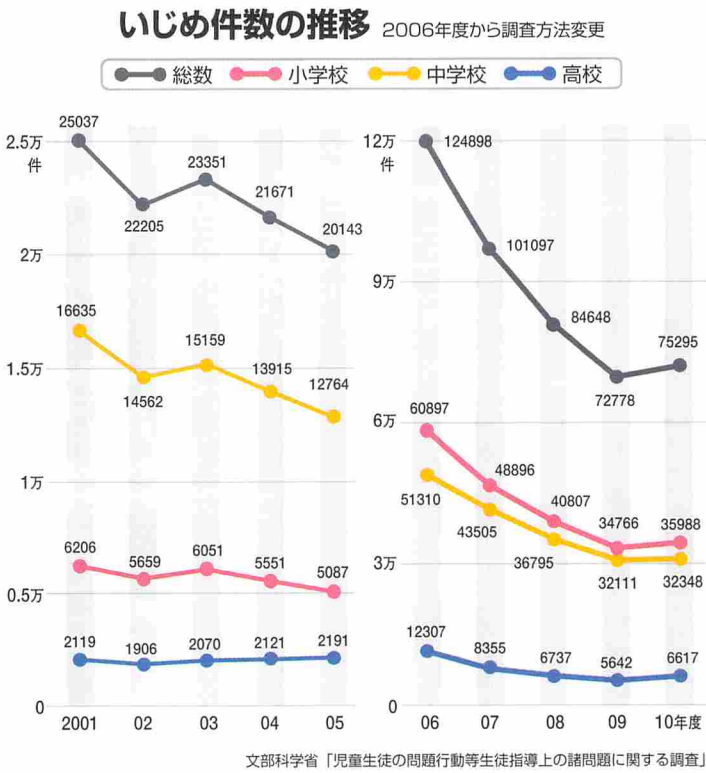
文科省「問題行動調査」

いじめ7万5千件、前年度から増加 高校不登校も増加に転じる

文科科学省は八月、二〇一〇年度の「児童生徒の問題行動調査」を発表した。

このうち、全国の小中高校と特

別支援学校で認知されたいじめは七万五千二百九十五件で、前年度より三・五％（二千五百七十七件）増え、調査方法が変わった〇六年



度以降では初めて増加に転じた。児童生徒千人あたりの件数は五・六

件（前年度五・一件）だった。今回の数値には被災した岩手、宮城、

福島は三県は含まれていない。

同省は、〇六年度にいじめの定義を変更。「子どもが一定の人間関係のある者から、心理的・物理的攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じている」「いじめか否かの判断は、いじめられた子どもか否かの判断は、いじめられた子どもの立場に立つて行うよう徹底させる」としている。

今回の内訳は、小学校三万五千九百八十八件（前年度比千二百二十二件増）、中学校三万二千三百四十八件（同二百三十七件増）、高校六千六百七十七件（同九百七十五件増）、特別支援学校三百四十二件（同八十三件増）。今回の増加は、児童生徒へのアンケートを実施する学

校が二五％近く増えて九〇・四％になり、実態の把握が進んだためと見られている。

暴力行為は五万八千八百九十九件（同二千六十六件減）、千人当たりの発生件数は四・四件（前年度四・三件）だった。

学校別では、小学校六千九百五十二件（前年度比百六十三件減）、中学校四万二千百十四件（同千六百一件）、高校九千八百三十三件（同二百五十二件減）。

また、小中学校の不登校児童生徒数は十一万四千九百七十一人（同六・一％減）で、三年連続の減少となった。このうち小学校二万二千六百七十五人（同二・九％減）、中学校九万三千二百九十六人（同六・八％減）だった。

一方で、高校の不登校は五万三千八十四人（同二・六％増）と、前年より増加。〇五年度（五万九千六百八十八人）に比べて、全体の在籍生徒数は四万人近く減っているのに対して、生徒数に占める不登校の割合は同じ一・六六％だった。

学び続け、「奉仕」するまじと が教師の「道」

子どもを成長させるために、学び続ける教師だけが教壇に立てる。成長しないとすれば教師ではない。教師の「道」を考える。

徹底して「奉仕」を 行う職業

昨年十一月、私たちは北海道師範塾「教師の道」を立ち上げました。その理念は次のようなものです。

「学び続ける教師だけが、教壇に立つことを許される。成長し続ける教師だけが、子どもを成長させることができる。教師は、子どもたちに努力の大切さを伝え、学びの『道』を指し示すべき存在である。だからこそ、教師は、自ら努力を重ね、学びの『道』を実践する者でなくてはならない」

「はじめから力のある教師はいない。子どもたちと同様、教師もまた、学びながら成長していく存在

なのだ。我々は、教師たる自覚と矜持を持ち、子どもたちのために自ら襟を正し、研鑽を重ねる者のみか、教師としての価値ある道歩むことができるのだと確信している」

私は教師というのは徹底して「奉仕」を行う職業だと考えています。そして学習指導要領に基づく「知・徳・体」の指導を徹底して行う。これが教師の本質であろうと思えます。このことは全ての教師が自覚しているはずで、例えば札幌市教育委員会の「教師の仕事・服務の宣誓」には「私は、ここに日本国憲法を尊重し、且つ、擁護するとともに、教育を通じ全体に奉仕すべき責務を深く自覚し」とあり、札幌市の全ての教師が署名をして

いるはずなのです。本来はこの通り実践していれば、北海道教育が「知・徳・体」全てで低迷するということはありません。

絶えざる研究と 修養に道がある

服務の宣誓をしていながら、その通り実践しなかったとすれば、辞めるべきです。それぐらいの覚悟と社会的な評価が必要ではないかと思えます。何も勉強しない、成長しない、学び続けないとすれば、そういう者は教師ではありません。私はそう思っています。

教育基本法第九条には「法律に

定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない」とあります。私はここに道があるのではないかと思います。絶えざる研究と修養を続ける。そして最後は教員自身の自己実現を成す。教師をやつてよかつたという思いを抱く。こうしたことが意欲になっていくと思うのです。

私自身は、目の前にいる子供たちを日本一の子供にしたい、世界一の教育をしたいという思いで、教

鈴木重男

すずき・しげお
北海道文教大学准教授
北海道師範塾「教師の道」
事務局長

1947年生まれ。北海道教育大学札幌分校卒。北海道札幌盲学校及び高等盲学校で教鞭。北海道教育庁指導主事、北海道札幌養護学校校長、札幌大学講師等を経て、現職。北海道師範塾「教師の道」副塾頭兼事務局長を務める。



材を作り、様々な場に出かけて勉強してきたつもりです。

文部科学省が実施した全国学力テストで、北海道の成績は最下層に低迷しました。原因はいろいろあるでしょうが、一番の問題は「学ばない教師」にあるのではないかと私は感じています。

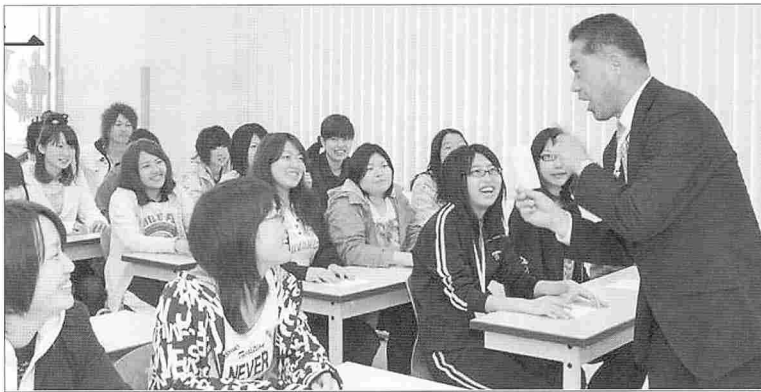
北海道教育委員会の調査報告(平成二十二年九月)によると、例えば「一日一時間以上勉強する児童生徒の割合」は北海道では小中学校とも全国と比較して極めて低く、「宿題をよく出している学校の割合」も少ないなど、家庭における学習習慣に課題があることが分かりました。

学校がきちんと宿題を出して、各家庭に「今日はこのような宿題を出しました。お父さんお母さん、ぜひ見て下さい」と毎日きめ細かく知らせる。そして翌日、子どもたちが提出した宿題にマルを付ける。こうしたことを繰り返していけば、「知」の問題はある程度解決できると思うのです。

「徳育」では、「いじめの理解や

指導方法、児童生徒理解などに関する力量を高める研修」「情報モラルやインターネットの危険性に関する指導」を行っているのは四割に満たない状況です。

なぜ各学校が「我が校はしっかりやっている」と言えないのか。道教委が態勢を整えていけば、徳育



大学での講義の様子

の問題も解決していくと私は思います。

教師の誇りが 教育向上の力に

『教育と医学』六月号に「学力&体力日本一の福井県の教育に学ぶ」という一文を、太田あや氏が書いておられます。

福井県は一九五六年から行われていた全国テストでも好成績を残していました。そして日本教職員組合の反対で全国テストが四十三年間中断していた時も、独自の「学力テスト」と「体力テスト」を継続していたそうです。

実は北海道も継続はしていません。ただ、それは学校内でのランク付けと進路指導のためです。福井県は生徒の弱点を見出し、それを克服するためのプランを学校ごとに作って実行していたということです。

北海道で、なぜ今までこのような活かし方ができなかったのか。また、太田氏によると福井では

「先生が信頼され、尊敬されていることが伝わってきた。この先生への評価はそのまま『公教育への信頼』とっていいと思う。学校の先生方は、子どもの教育を一身に背負っているという誇りを持って仕事に取り組んでいる」というのです。

私はやはり、教師一人ひとりが教育技術を磨いて、良い授業をすることが大事だと思います。良い授業をすれば、必ず子どもや保護者、同僚、管理職、そして地域の人たちからも認められます。そうすると教師は誇りを持つ。それが北海道教育の向上につながるはずです。

教師一人ひとりに確かな力量、プロとしての力を持たせるためには、根っこが大切です。学び続けるというエネルギーです。その根っこになるのは「奉仕」です。奉仕という心がけを持って研究と修養を続けていくことが何より大切だと思います。■

北海道人格教育懇話会(六月二十一日)より

トーマス・エジソン (1847 ~ 1931)

難聴きっかけに世紀の発明

難聴に苦しんだ発明家は、音の“振動”から世紀の発明を生み出した。

ジャーナリスト 池永達夫

小学校三カ月で中退

発明王トーマス・アルバ・エジソンは一八四七年二月十一日、オハイオ州ミランで生まれた。『なぜなせ少年』として有名なエジソンは、「1+1=2」を教える教師に対し「一つの粘土と一つの粘土は合わさっても一つの粘土」と主張し、教師から「腐れ脳ミソ」と罵倒され小学校から放逐されたことは有名だ。学歴からすればエジソンは、小学校三カ月中退となる。一説にエジソンは注意欠陥多動性障害（ADHD）を患っていたとされる。

だがエジソンは小学校こそ中退したが、勉強を投げ出したわけではなかった。まず家でお母さんの

ナンシーが家庭教師を務め、やがて図書館がエジソンの学校になった。

エジソンが十二歳のとき、住んでいたポートヒュートンと州都デトロイトまでの百キロが鉄道で結ばれた。エジソンはすぐさま鉄道会社の事務所に駆け込み、新聞の売り子になった。

この汽車は朝七時にポートヒュートンを出発し、デトロイトには午前十時に着いた。帰りはデトロイトを夕方六時半に出発し、夜の九時半にポートヒュートンに着いた。このデトロイトに到着して帰りの便に乗るまでの八時間半が、後々のエジソン足らしめる大きな資産を形成していくことになった。

デトロイトでエジソンの目に留まったのは公共図書館だった。大好きな本をいくらでも自由に読め、しかも何時間いたって誰にも追いつ出されるようなことはなかった。エジソンは片っ端から図書館の本を読み始めた。いつの間にか、エジソンの読書スピードは大人も顔負けするほどの速さに達した。エジ

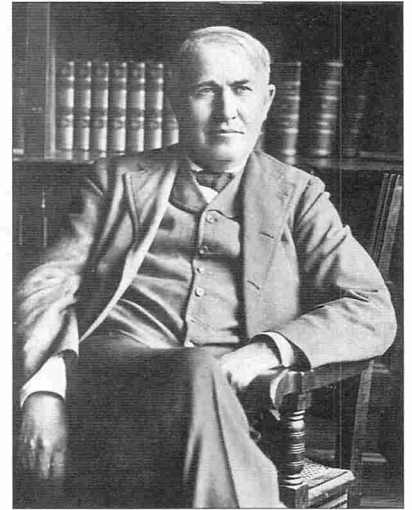
ソンとすれば登校、下校時に金を稼ぎながら、『図書館学校』に通っていたようなものだった。この時期、エジソンの知的資産の柱を形成したことだけは確かだ。

難聴に悩まされる

ともあれ、しばらく新聞の売り子稼業も順調だった。しかし、好事魔多しだ。

汽車が、途中駅で停車中にホームを動き回った後、汽笛とともに走り出した汽車にいつものように飛び乗ろうとした。だが、この時ばかりは両手でかかえた新聞のせいで、バランスを失いレールの上で落ちかけた。とっさに助けようとした車掌がエジソンの両耳を手でつかみ、何とか難を脱した。命拾いしたエジソンだったが、それ以来、エジソンの耳は難聴に悩まされることになる。

母親のナンシーは医者に行くよう薦めたが、エジソンは気にも留めない素振りを示した。エジソンは、あくまで楽道家ぶっ



トーマス・エジソン = ROGER VIOLETTE

だが、苦勞をかけている母親に、これ以上、重い荷物を背負わせるのは心苦しかったのだ。

だが、エジソンの心の底には、音に対する原初的な欲求が日ごと高まっていった。

エジソンは、小さい時からピアノが好きだった。ピアノが奏でる音は、エジソンの心に躍動感を与え、踊りたくなるような高揚感を覚えた。だが、事件後のエジソンの耳には、ピアノの音は微かしか聞こえなかった。エジソンは蚊が飛ぶような隔靴搔痒の音ではなく、激しいスコールがトタン屋根を撃ちつけ、雷鳴がとどろく音が聞き

たかった。

音の振動で蓄音機発明

しかし、耳の不自由なエジソンに新たな耳が与えられた。

演奏中のピアノに吸い寄せられるように近づいたエジソンは、ピアノにびったりと体を寄せ、さらに頭を押し付けた。すると、振動が頭蓋骨に響く感触を得た。そしてエジソンはピアノの蓋にいきなり噛み付いてみた。それは口先でコツコツと探った後、ガブリと餌に喰らいついた魚にも似ていた。

エジソンの歯が、ピアノの弦から伝わる振動でガタガタ鳴った。その振動が頭蓋骨に響き渡った。これまで渴望していた音が、物理的な振動の形で実感できた。エジソンの両目から涙があふれ出た。その涙を拭こうともせずエジソンは、ピアノの蓋に噛み付いたまま、美しい音色に聞きいった。

コトリとも音がしない深海魚のような世界に生きる者にとって音は、何物にも代え難い福音だ。音

が聞こえなくなったエジソンは、死の砂漠で水を求めるように、音への情熱を傾け、歯を震わせ頭蓋骨に響かせることで音を獲得していったのだ。振動としての音を耳からではなく、歯と頭蓋骨をスピーカー代わりにすることで失われたはずの音に再び遭遇した。

この時の感動が、後の蓄音機の発明につながった。音が振動ならば、地震計のように音の記録も可能となるはずだった。記録可能ならば音の再生も可能となる。エジソンは、それ以来、音の記録と再生に全精力を傾けて、鋼鉄の針で柔らかい鈴の板に音の振動を刻印できるようにした。そしてついに、世界初の蓄音機が完成したのだ。

人類史上、最初の録音はエジソンが自ら歌った「メリーさんの子羊」だったが、再生された音を聞いたエジソンは全身が震えたという。一八七七年、エジソンが三十三歳の時の話だ。

難聴のエジソンは、それゆえに蓄音機という世紀の発明をも成し遂げたのだ。■

蘇れ 信州教育!

近代教育の開拓者となってきた「信州教育」の精神を、全日本のスクールで再生していく必要がある。

「教育県信州」

信濃の国は十州に 境つらぬる
国にして
尊ゆる山はいや高く 流るる川
はいや速し

(県歌「信濃の国」)

このように県民が好んで歌う信州長野県は、私が学生時代から好んで訪れた思い出の地である。

七月末に長野市を訪れて「人づくり、家庭づくり、国づくりのモデル 信州教育よ 蘇れ!」と題して話をさせて戴いた。教育史を専攻する私にとっては、松本市にある開智学校(明治六年創設。日本でも最初の洋式建築の学校として知られる)や伊沢修二(東京師

範学校長)、沢柳政太郎(京大総長)、長田新(広島文理科大学長)、務台理作(東京文理大学長)など近代教育を指導した著名な教育者を輩出した県として、以前から関心を抱き続けてきたところである。

明治後半から既に天下に「教育県信州」の評価を得、以後、戦前は特に日本の近代教育の開拓者的役割を果たしてきたことは周知の通りである。

大正の半ばに長野県の一小学教師の来訪を受けた杉浦重剛(明治天皇に倫理学を進講した著名な教育者で日本中学校の創立者)は、居合わせた多くの先客を退けて、いと丁重にその教師を招じ入れ、当時、第一次世界大戦後の好景気に乗じて、多くの教師が実業界に流れる傾向があるのを嘆き、「信州の

教師方の中にも、そうした傾向があるか?」と質問した。その客が「そうした傾向は少しは見られる」と答えると、杉浦ははらはらと落涙し、「日本の教育も減じる」と悲嘆にくれたという。

この挿話は、当時の識者が信州教育をいかに見ていたかを示すものとして興味深い。

地域が教育を支援

それでは一体、信州教育の特質とは何かと言えば、識者は「児童・生徒に熱心に打ち込む風潮」(松岡

信濃教育会長談)と述べられているし、私は教師の人格性を重視し、その人格による感化、影響を高く評価する気風と言うこともできると思う。しかも、この気風が教育

界のみならず、地域全般に浸透していて、地域が教育を全般的にバックアップしている点に信州の特質がある。

私は昭和三十八年に横浜国大生を連れて、「信州教育」を体験させるために、岡谷、松本、長野の諸市を訪問して、現地の諸教師たちと懇談したことがあった。その時、「信濃教育」の編集幹事、長島亀之助先生から感想を求められ、私は「信州教育への一提言」を書いて、信州教育は過去の栄光に浸っているだけではなく、今こそ信州教育を改革して、日本の教育改革の先進県としての期待に応えるべきであると論じた。今にして思えば、その一文は青年客気の然らしむるところであつたのだが、若いだけに遠慮なく当時の信州教育の現状を批判したわけである。

これが「信濃教育」に掲載されると、県内から賛否両論がごうごうと巻き起こった。その大多数は「若いくせに何を言うか!」「何も知らぬくせに信州教育を論ずるとは生意気な!」という気分のもの

だった。このため「信州教育」では、私の小論のためにわざわざ「特集・信州教育への一提言を読んで」の特集が組まれた。

その後、昭和四十年代に入ると、「信州教育の墓標」（藤森栄一）に示されたように、信州教育の形骸化がジャーナリズムでも取り上げられるようになった。折しも全国の高校、大学で学園紛争が絶えなかったが、信州大学でも長野、松本両校でも同様の状況であった。

混迷解決のために

その頃、私は木田宏氏ら文部省の幹部と上高地で研修会を開いていたが、突然、信州の教師数人がやってきて、信大教育学部附属校と父兄や地域住民との間に教育実習のあり方を巡ってトラブルが絶えないと訴えた。当時の信大教育学部には、私の親友も在籍していたので、私は教師らに信州教育の伝統を汚さぬよう両者がよく話し合っただけで事態を解決するように話したのであった。

信州は昔から、薩摩や長州、土

佐などとは違って、軍や政治の分野ではなく、文化の分野で日本をリードしてきた伝統があり、それは日本の将来を考える時、まことに時に適した良き遺産である。

この点に想いを致し、先の講演では、今日の教育の混迷を解決するために、信州教育の精神が全日本本的スケールで再生することが必須であると述べた次第であった。

教育は地域の風土や文化、社会と密接に関わっているだけに、夫々の地域に適した教育のあり方を追求していく必要がある。その際、信州教育の歩みはよき参考になると信ずるものである。

再び声を大にして叫びたい。
「蘇れ、信州教育」と。■

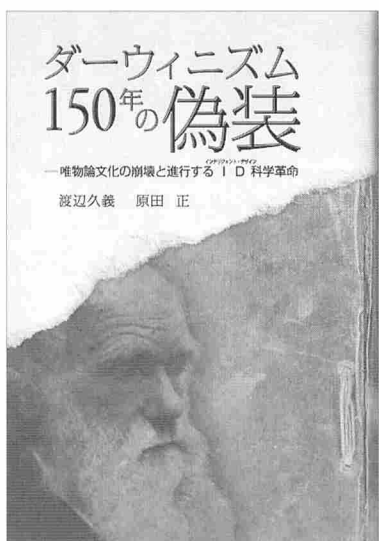


鈴木博雄

すずき・ひろお
筑波大学名誉教授

本書は、多くの人々の目を覚まさせるに違いない！
しかし本書は、ある種の人々を間違いなく不快にさせるだろう…

A5版/324ページ/ハードカバー上製本/2500円＋税



渡辺久義／原田正 著

ダーウィニズム150年の偽装

—唯物論文化の崩壊と進行するID科学革命—
インテリジェント・デザイン

なぜ唯物論という「いびつな哲学」が社会を支配してきたのか。
なぜこれほどの欺瞞や間違いが、長く放置されてきたのか。

ダーウィン進化論というものが、いかに恐ろしいものであったか。
テレビ番組や教科書などを通して我々が洗脳されてきた「ダーウィン進化論」は、じつは何であったのか……

科学者の中で今、理論武装して起こりつつある「インテリジェント・デザイン」運動とは何か。

ここに、鮮やかな謎解きの旅が始まる。

ご注文は書店へ お急ぎの方は下記までご連絡ください

アートヴィレッジ <http://art-v.jp>
受注センター：〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18
TEL.078-882-9305 FAX.078-801-0006

子育ては＊絵本で＊大丈夫



浜島代志子
劇団天童/
天童芸術学校代表

人々を救ったのはやはり天女様の子か…

沖繩の物語「ふなひき太良」
たらあ



沖繩の物語「ふなひき太良（たらあ）」岩崎書店刊

この絵本を書いたのは儀間比呂志さん、沖繩の人です。骨太の木版画がぐいぐい胸に迫ります。「あぬやあ むかしむかしのはなしやしが、沖繩の南の島にがし（飢饉）ああってね。」と語り口調が始まります。村のおじいばふくふくと肥えたあかんぼうを拾って連れ帰りました。「もしかしたら天女様の子かもしれん」人々はささやきます。これがいかにも沖繩らしいところ

です。沖繩には琉球王朝時代ノロ（巫女・神人）というシャーマンがいて、祭祀をとりしきっていました。民間信仰としてもノロの家系の人がいきましたが、現代では殆どみら

とのおとこの五、六倍になったけれど寝てばかり。台風が島を襲いながらも流されてしまっても太良はがじゅまるの木の根元で寝てばかり。ここから物語が急展開します。薩摩の侍と首里の役人の船が島にきたので助け船だと皆は思ったが大違い。年貢の取り立てだった。さあ、太良の出番。沖の船を引いて浜に上げてはまだ引き続ける。

役人達は鞭を振るう、太良の足から血が流れる。村人は太良と一緒にになって船を丘まで引き上げた。この場面の絵がぐっときます。こちらを向いた太良のりりしい顔、村人の為に船を引く雄々しい姿、感

れないのではないでしょう。私も沖繩で不思議な体験をしました。ノロに呼ばれ、沖繩に残ってノロになりなさいと言われましたが、やまとに戻りました。

動しないでおられましようか。村人達が小躍りしたのもつかの間、なんと太良はどどどと倒れ太良のかたちをした大石になってしまった。村人達はささやき合った。「太良はやっぱり天女様の子やていさあ」ここがいかにも沖繩らしいところ

さて、太良はどんどん大きくなって十五になるとおとこの五、六倍になったけれど寝てばかり。台風が島を襲いながらも流されてしまっても太良はがじゅまるの木の根元で寝てばかり。ここから物語が急展開します。薩摩の侍と首里の役人の船が島にきたので助け船だと皆は思ったが大違い。年貢の取り立てだった。さあ、太良の出番。沖の船を引いて浜に上げてはまだ引き続ける。

ぐうたら息子が村人を救うためにすつくと立ちあがるももたろうは桃から産まれています。桃は神聖、神が関わりと言われていますから、やはり天の子だといえるでしょうが、沖繩ほどはつきり天の子だとは語っていません。

ニライカナイ（海に向こうに理想の国があると）の思いがあり、先祖を祀り、苦境を切り抜けながら培ってきた「皆兄弟（きょうでえ）」という沖繩ならではの物語です。E

公演、講演のお問い合わせは
劇団天童まで。
TEL 〇四七-一七〇三-一七九三二
URL <http://gekidanendou.com>
mail hamashima@gekidanendou.com

「日本の代表と一緒…」 なでしこジャパンの「もう一つの勝利」

女子サッカーW杯優勝で、日本中を熱狂させたなでしこジャパン。世界の強豪に対して、劣勢になっても決してあきらめない姿勢を見せ、劇的な勝利を収めた。

ところで、主将の澤穂希選手が決勝戦後に語ったコメントが、米Yahoo Sportで紹介され、ネット上で話題になっている。

澤選手は、自分たちがしていることは、サッカーの試合だけではないことを意識していたという。大震災の被災者に少しでも喜びを与えることができれば、「それが私たちの成功になる」と述べ、「日本は復興に向かって進んでいます。その日本の代表として決して諦めない気持ちを持って決して諦めたのです」と語っている。今回の優勝を日本の人々が共に喜んでくれたら幸いです、とコメントを結んでいる澤選手。国の代表としての



なでしこジャパンの主将としてチームを引っ張った澤穂希選手。7月17日の女子W杯表彰式でドイツ・フランクフルト(dpa/PANA)

誇りと強い使命感が伝わってくる言葉だ。ただ、澤選手のこうした言葉は日本のマスメディアではほとんど伝えられていない。

今回のW杯で日本チームは、東日本大震災に対する世界中の支援に感謝する意味で、試合後に「To Our Friends Around the World

Thank You for Your Support (世界中の友人たちへ、支援をありがとう)という横断幕を掲げている。

ちなみに、彼女たちが試合会場でメッセージを発信するのは、今回が初めてではない。

二〇〇七年の北京オリンピック。一次

リーグのドイツ戦で、なでしこジャパンは四万人近い観衆から激しいブーイングを浴び続ける。結局、試合は0対2でドイツに敗れたが、彼女たちはその試合後「ARIGATO 謝辞 CHINA」という横断幕を掲げ、観客に向かって感謝を表したのである。

この試合後、メディアやネット上には、ブーイングを続けた観衆を批判する声や、なでしこジャパンを称える意見が多く掲載され、論争になったという。

今回のW杯でなでしこジャパンは、フェアプレー賞を受賞した。全六試合で、五枚のイエローカードと一枚のレッドカードを受けたのみ。特にグループリーグでは一枚のカードも受けていない。彼女たちが見せた献身的かつクリーンなプレー。そして自己犠牲的、献身的な行動の中にある芯の強さ。W杯優勝と共に、彼女たちが国の代表として見せた内面の強さ、美しさは、もう一つの「勝利」をもたらしたと言える。E

奇跡を呼ぶ
100万回の祈り

村上和雄著 / ソフトバンククリ
エイティブ / 一五七五円(税込)



「『人のため』に行動しているとき、よい遺伝子のスイッチはONになります。人の成功を心から祈り、そのためにできることを考え、行動しましょう。…必ず毎日を幸せに暮らすことができます」という著者の言葉は、震災の対応で称賛された日本人の姿勢がどこから来るのかを示しているようだ。

学力も人間力もぐんぐん
伸びる「志教育」の秘密

山田昌俊著 / 総合法令出版 /
一五七五円(税込)



「日本人は『祈りの民』だった」と著者は言う。本書の中で著者は、「祈りの力」の偉大さを述べている。自分で病気の治癒を祈るだけでなく、多くの人々を動かすような奇跡も起こることを、例を交えて紹介している。

そして、今回の大震災に対する復興の原動力として「一日三回、毎日、三年間の祈りを捧げよう」と提案する。知識や技術一辺倒ではなく、私たちに大きな力を与えてくれる「サムシング・グレート」の働きを呼び覚ます「祈りと行動」があれば、日本人が本来持っていた、大自然との調和による恵みを大切にする生き方を取り戻す生き方こそができる、と説く。

「志教育」を掲げ、六年前松本市に開校した才教学園。子供たちは一様に「勉強が面白い、もっと勉強したい」と意欲的に取り組む。勉強をさせるのではなく、自ら勉強する子供に育てあげる。新しい教育モデルとして注目を集める「志

「魂の教育」とは何か

人格教育では、子供たちが教師や父母など模範となる人の人格に触れて良い影響を受けることが大切です。また、「人格」の語源には「魂に刻まれたもの」という意味があります。「魂の教育」は人格の核心とも言える魂の無限の可能性に気づき、その魂を強めていくこと、あるいは子供たちが自己の内面の価値に目覚めて人格の形成をなすことだと考えます。例えば、「大自然に大いなるものの存在を感じる」と言いますが、そうした無限の価値、意識のようなものを自分自身の中に見出すことだとも言えるでしょう。

教育」の理念を創設者自身が本書に著した。

才教では受験エリートではなく、小学校段階から志や夢を持たせることで、子供の無限の可能性を引き出し、学力も人間力も備えた人間エリートを育成する。小中一貫の体系的なカリキュラムでは、従来の受験校や進学塾にはない、やる気の育成システムが光る。人としての基本人格を養い、才・夢・役割を明確化させ、志を

立てるべく進路を拓く。さらに学校と家庭が志教育の理念を共有し、教師、保護者が一体となって子供の教育に取り組むことで、真の人間エリートを育てあげている。

一言で言えば、世のため人のため、高い志を抱くとき子供は学び始めるという、人間の原理だ。

本書を見ると、公の精神を教えない、倫理・道徳や伝統文化を教えない、現教育の限界点がはっきり見えてくる。

子供に安全なケータイを持たせよう

夏休み真っ盛りです。子供たちは学校から解放されて、さまざまな体験にチャレンジできる楽しい期間ですが、その一方で、夜遊びなどを通じてさまざまな誘惑を受けたり、犯罪に巻き込まれたりするので、注意が必要な時期でもあります。

最近では、安全対策として、子供にケータイを持たせる保護者が多

くなりました。夏休みは、子供がそのケータイからネットに接続する機会が増えます。しかし、ネット上には出会い系サイトをはじめ有害情報で溢れていますから、保護者は子供のケータイ使用にも十分に注意を払う必要があります。

東京都は先ごろ、子供がケータイを使って犯罪に巻き込まれることがないように、安心して使えるケータイ

の基準をまとめました。小学生用には、ネット接続できない上に、通話やメールできる相手を制限できる機種を推奨しています。

中学生以上には、①安全なサイトだけに接続できる「ホワイトリスト方式」を採用している②深夜の利用を制限できる③長時間のゲームができない④高額な商品の購入を防止できる——などの機能を持った機種です。こうした条件を満たしたものについては今年十月以降、都の推奨ケータイとして売られることとなります。

小中学生にはケータイは持たせないのがベストです。もし、持たせる必要がある場合は、東京都の推奨基準を守る上で大切なことです。

毎月第3日曜日は「家庭の日」
11月第3日曜日は「家族の日」

「家庭の日」は、社団法人「青少年育成国民会議」が進めてきた「家庭の日」運動に端を発し、今ではほとんどの自治体が、「第三日曜日を「家庭の日」に定めています。さらに政府は十月の第三日曜日を「家族の日」、その前後二週間は「家庭の週間」として定めました。この日を機会に、「家庭の強い絆を確認できれば、それは家族みんなへの素敵なプレゼントになるでしょう。」

家庭は愛の学校

真の家庭運動推進協議会

The Association for the Promotion of True Families

〒160-0004 東京都新宿区新宿5-13-2 成約ビル4F

TEL 03(6456)7700 FAX 03(6456)7761 <http://www.apft.gr.jp>

●皆様の御意見や気づいたことをお寄せ下さい。教育問題に関して、皆様の身の回りでの様々な出来事や御意見などを真の家庭運動推進協議会本部までお寄せ下さい。お寄せいただいたものを参考にしながら、皆様と共によりよい教育環境や家庭づくりに取り組んでいきたいと考えています。





第3種郵便物認可
2011年9月10日発行
毎月10日発行・通巻256号

稲むらの火と濱口梧陵／和歌山

歴史と
伝統の
探訪



(左上より時計回りに) 広村堤防、濱口梧陵の像(広川町役場前)、津波が襲った際に村人が逃げた広八幡神社、「稲むらの火」は教科書にも取り上げられている(写真は光村図書の小学校国語教科書)



「これはただ事でない。と五兵衛は家から出てきた。」ではじまる、稲むらの火。和歌山県広川町の物語である。

濱口梧陵(以下梧陵)が安政南海地震(一八五四年)の津波から村の人々を逃がした。この逃がし方がすごい。刈り入れたばかりの稲むらに火を放つのだ。火事だと思つた村の人々は高台に駆けつけた。それで多くの人の命を救つた。

しかし、避難がこの物語の本質ではない。梧陵は、村を守るために全長八百メートルにも及ぶ巨大堤防を作り上げるのだ。

津波に全てを持っていかれた村人は明日の食べ物もない。村人達は村を棄てて逃げ出していく。そこで、堤防を作るといふ公共事業を行い、村人に給金を支払つた。当時、給金といえは盆と正月だけであつた。それを日払いにして、村

人の生活を支えていく。この事で村人は離散せず現在に至る。

しかし、梧陵は大変であつた。この事業の資金は全て私財であつた。江戸の醤油屋(ヤマサ)は店を閉じた。当時の金で、一億円以上を投下した。

それでも梧陵は、「百世の安堵を図る」という志のもと事業を進めた。

時は経ち、一九四六年。突如、昭和南海地震が発生した。津波が広村を襲う。堤防はこの津波から村を守つた。村の中心部は浸水せず、亡くなった方も少なかった。

インド洋大津波以後、稲むらの火は再び脚光を浴びる。津波避難の方法として世界中に発信された。今年、教科書に再び取り上げられた。さらに、津波防災の日が策定された。十一月五日である。安政南海地震の発生の日である。目

2011

9

no.256

En-ichi

●発行所
NCU-NEWS
(東西南北統一運動国民連合)

〒160-0022
東京都新宿区新宿5-13-2
成約ビル2F
TEL.03(5362)0631
FAX.03(3354)5017
E-mail news@en-ichi.org
URL http://www.en-ichi.org

●発行人 渡辺久義
京都大学名誉教授

定価 400円
[1年間5000円(送料込み)]
郵便振替番号
00160-3-667291

●本誌に対するご意見、ご感想をお寄せください。
●定期購読のお申し込みは、電話またはEメールでどうぞ。